

第9回日本小児在宅医療支援研究会に向けて

第9回日本小児在宅医療支援研究会の会長を務める埼玉医科大学総合医療センター小児科の森脇と申します。これまでも研究会の運営には主に裏方として関わってまいりましたが、初めて会長として関わることになり身の引き締まる思いです。2011年に始まった本研究会も今年で早くも9回目となりました。第7回までは当科の田村正徳特任教授が会長として今回と同じソニックシティで開催してきて、昨年初めて関西（神戸）で開催しました。今年は埼玉に戻ってきましたが、会長交代でフレッシュな感じが出せればと思っています。また、今後もさらにこの会を発展させるためには少しずつ世代交代が必要と考えています。

今年のテーマは「持続可能な地域共生社会における小児在宅医療」としております。この研究会を始めた当初は、小児においても在宅医療が重要であることを啓発することが主な目的と考えておりましたが、この間の取り組みで医療的ケア児の保育・療育・教育や災害対策など課題はより進化してきたと考えております。しかし、まだまだ小児在宅医療に関する公的支援や社会的認識は不十分で、高度な医療ケアを要する子どもが在宅療養に移行した場合には、母親を中心としたご家族に過大な負担がかかる現状が続いています。長期療育が必要な成長期のお子さんに出来るだけ適切な環境を提供し、ご家族の負担を少しでも軽減し、安全に在宅医療を進めていくためには、小児在宅医療に関わる人材育成とともに、病院・療育施設の医師・看護師・コメディカルスタッフと訪問看護ステーション・在宅療養支援診療所・在宅支援事業所・地域保健センターや行政との連携を更に推進して、医療と福祉の壁を解消する方策を見出す必要があります。その中で当研究会がさらに発展していくことは小児在宅医療の展開において非常に重要だと思います。今回のテーマにある持続可能というキーワードは当研究会にも当てはまると思います。

今年の研究会で、基調講演は公務ご多忙な中、飛騨市長の都竹淳也様にお越しいただくことになりました。ランチョンセミナーでは東洋大学繁成剛教授の「医療的ケアを要する子どもたちの豊かな育ち～ものづくりを通して～」というご講演、その他「新生児期から始まる小児在宅移行支援」「地域共生社会における医療的ケア児」という二つのシンポジウムを予定しております。また、昨年の関西の会に比べると事務局機能がなかなか厳しく、参加者の皆様には行き届かぬ点をお感じになられるかもわかりませんが、小児在宅医療にかける情熱は負けなつもりでおります。是非、皆様方に活発にご討議いただければと思っています。文末になりましたが、今回の日本小児在宅医療支援研究会開催にも公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団からご支援をいただきました。ここに篤く御礼申し上げます。

令和元年7月吉日

埼玉医科大学総合医療センター小児科

森脇 浩一